

# 「井川活性化プロジェクト」

静岡産業大学 情報学部

教員：特任講師 藪崎 栄（情報学）、非常勤講師 外立 ますみ（民俗学） 塚本由紀江（色彩学）

参加学生：Aチーム：松浦 歩里（2年） 池田 奈菜（2年） 中島 愛佳（2年）

Bチーム：早野 由二（2年） 小原 優輝（1年） 田中 慧（1年）

Cチーム：大場 豊（2年）（アドバイザー）

## 1. 要約

昨年度、井川支所から依頼を受けた「渡船の航路・運行体制の見直しを通じ井川地区の回遊性を向上して欲しい」というテーマに続き、今年度も「井川地区の活性化について」という依頼に挙手をした。この取り組みを学生の視点から地域活性化に貢献するプロジェクトとして実施した。教員の専門分野・知見を生かした地域連携・地域貢献の実践と、実社会をテーマとしたPBL（課題解決型学習）手法により学生の教育効果の向上を目指した。

静岡産業大学(以下、産業大とする)では、本プロジェクトを集中講義「地域連携演習B」として9月から半年間取り組んだものである。「産官学住」の連携を重視し、地域の活性化と学生の成長がともに高まる内容となっている。

## 2. 研究の目的

昨年度から井川地区を活性化させる方法を模索して取り組んできたが、2年目のプロジェクトでは、継続してさらに深めた提案を進めるために、PDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルに載せ、磨き上げをはかる。フィールド・ワーク（自ら体験して自然地理を知る、地元の人々から話を聞く、資料を調べる）により、井川の環境や歴史、人々の暮らし・資源を知り、活性化プログラムを提案することを目的とする。

**キャリア教育的視点** 身近な社会（地域）に対する愛着は、そこに住む人々との触れ合いや、自然や遺物と自分との関わりを感じたり、地域での活動や行事を体験する中で育まれていくものである。本プロジェクトを通じて井川地区の地域資源に対する気づきの機会をつくり、井川を愛する心を培う。学生らが主体的に地域の課題解決に取り組み、地域活性化活動を通じた人間関係作りを行い、未来をひらく心豊かな人材を育成することを目的とする。

## 3. 研究の内容

### (1) 授業前の準備

#### 授業概要の説明会実施：9月1日

井川地区の活性化について、今年度はコンパクトな人数で活動を行いたかったため、公募はせずに担当教員の授業を履修していた学生に声かけをした。昨年度から継続する学生4名に加え、3名の学生が新規に加わった。この日に全員が集まり、夏休み中であったが、授業概要の説明や今後の予定を聞き、担当する教員3名を含む自己紹介を行った。

## (2) 授業実施内容

授業は「井川活性化プロジェクト」と題して、金曜日の4時限目を当て、表1のような内容で進めた。現地調査を2回実施し、その前後に準備とまとめを挟んだカリキュラムである。このプロジェクトでは、学生たちとミーティング(またはディスカッション)形式で話し合っ決めていく方式をとった。

本プロジェクト開始にあたり、井川支所の担当者に藤枝キャンパスまでお越しいただき、井川地区の概要(現状)と課題を簡単に説明していただいた。次に新しく参加した学生に昨年度の活動を紹介し、川根本町で活動されてきた教員にその活動を報告してもらい今後の参考にした。そして、受講者7名を3チームに編成し、各チームごとに地域についての基礎知識をインターネットや資料から集めるという準備を経て、9月末～10月初旬と12月半ばに2泊3日ずつ2回の現地調査を行った。現地では、渡船や廃線路を体験するほかに、できるだけ地域の人々に接して話を聞くことに重点をおいた。現地調査の結果を踏まえ、各チームの提案が「地域に寄り添ったものであるか」「どのように活性化につながっていくのか」に注力し検討した。今年度はそれぞれが提案したいテーマを早い時期に絞ることが

できたため、テーマに沿った効率的な調査ができたと思われる。

実施月日	内 容
9月1日	「井川活性化プロジェクト」初顔合わせ
9月21日	井川の概要説明、第1回現地調査の準備
9月29日	<b>第1回現地調査</b> 2泊3日
30日	若い移住者2名とのディスカッション/落花生の収穫/
10月1日	インタビュー/初参加チームは観光資源を巡見
10月6日	調査後の報告会とまとめ
10月27日	提案のメリット・デメリット、解決策の検討
11月3日	※井川渡船祭り(呈茶サービス手伝い)(学生1名教員2名)
11月10日	※BS法によるアイデアの創出と提案内容の検討
11月17日	井川に関するキーワードの図化と話し合い
12月8日	※活性化のPPX作成の説明、第2回現地調査の準備
12月15日	<b>第2回現地調査</b> 2泊3日
16日	ミーティング/井川小中学校学習発表会/交流会/井川駅
17日	見学/焼畑地の援農(電気柵・焼け株撤去、石出しなど)
12月22日	調査後の報告会とまとめ
1月5日	※報告書のみなおし1
1月19日	※報告書のみなおし2/プレゼン作成作業
2月2日	発表会プレゼン練習
2月9日	※学内でプレゼン
2月15日	<b>井川活性化プロジェクト合同発表会</b> (県立大と合同)
2月18日	※住民ジャッジシート・ふりかえりシートを学生に送付 (3/2回収予定)

表1 地域連携演習B 「井川活性化プロジェクト」の授業内容

(※は必要に応じて追加した活動)

**行政との連携** 井川支所担当者とは、昨年度に引き続き情報の共有ができていたと思う。現地調査と発表会については、井川支所発行の「いかわだより『おかあさん』(井川地区全戸に配布)に毎回、記事を掲載してもらった。また、学生発表会については、静岡市報道資料を報道機関に投げ込みをし、取材の働きかけをしたり、地元の方々に発表会のチラシを配ってもらった。

12月に入ってから、ほぼ毎週、井川から60キロの距離を隔てた藤枝キャンパスまで出向いてくれて、学生たちと細かい打合せを行ったり、作業の手伝いにまで関わってくれた。

#### 4. 研究の成果

本プロジェクトでの研究成果物は、フィールドワークの調査報告書と学生発表会でのチームごとのプレゼンテーションである。

**(1) 当初の計画** 現地調査で見聞したことをチームごとに詳細に報告するスタイルで調査報告書を課した。これは記録という点だけでなく、これらをまとめることで体験したこと、聞いた話を客観的に見つめ、活性化の提案につなげて考える基礎資料とする。また、地域で発表会を行うことで、地元の人々に評価してもらい反省点を改善していくことにつながる。

**(2) 実際の内容** 各チームによって、事実のとらえ方と表出のかたちが異なっていた。報告書のスタイルも、例えばAチームは時系列に詳細な報告を書き出して、提案に至った動機などを表現したり、地元の人々の言葉を出すことで地域の特徴を表わす手法をとっていたのに対し、Bチームは問題提起から解決方法の提案までをかなりまとめたかたちで論理的に表現した。

#### (3) 実績・成果と課題

**井川活性化合同発表会** 昨年と同様に、発表会を開催して学生が考えた提案を井川の人々に聞いてもらった。同じく課題解決事業で活動している静岡県立大学(以下、県立大とする)との合同で開催した。産業大の3チームは調査報告書でまとめた実態を基軸にし、プレゼン担当教員から指導を受けながら年明けからプレゼンの準備を行い発表会に備えた。また、インタビューをした地域住民をはじめ、ダム関係者、渡船関係者、行政機関、各産業界や井川地区関係者約30名に案内状を送付した(図2)。

発表会では、10代から80代までの地域の人々総勢約50名が足を運んでくれた。本学の学生および教職員は12名が臨んだ。

発表は、Bチームから「井川の自然を活用した活性化(流木の利用/渡船場の案内板の提案/Twitterを利用した活性化)、Cチーム「てしまんくの歌」CD DVDをつくろう!、そしてAチームの「井川移住体験プラン」(発表順)であった。なお、翌2月16日(金)には発表会の様子が静岡新聞朝刊に掲載された。

**(4) 今後の改善点や対策** この機会に、参加者全員に審査員になってもらいジャッジ・シートへの記入をお願いした。これは昨年度も実施したもので、各チームの総合的な評価点と具体的な感想を求めた。今回は42名の回答があり、「どんなに素晴らしい発表でも、声が小さく聞こえなければ意味がない」から始まり、「具体的な模型での説明はわかりやすくてよかった」など多くの意見が寄せられ、今後の方向性を定めるうえで非常に参考になった(図3)。質疑応答では、提案を進めるために解決し

**井川活性化プロジェクト発表会のご案内**

立春も過ぎ、日増しに日差しが暖かくなってきています。  
皆様いかがお過ごしでしょうか？

■静岡県立大学と■静岡産業大学では、静岡市企画課が主催する「しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業」に手を挙げ、活性化の提案に向けて活動を行ってきました。渡船に乗り、地域の方々にお話をうかがって考えたことを、多くの皆様に聞いていただきたく、以下の予定で発表会を行います。是非、お運びいただき、ご意見をお聞かせいただけましたら幸いです。

日時 平成30年2月15日(木) 13:30~16:30  
会場 井川生涯学習交流館 (井川支所ホール)

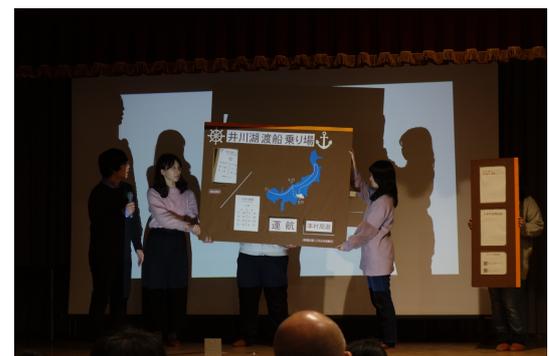
**プログラム**

13:30~ 開会の挨拶  
13:40~ 発表  
■Bチーム ・「井川の自然を活用した活性化」  
(流木の活用/渡船場の案内板提案/Twitterを利用して活性化) (質疑応答)  
■Cチーム ・「てしまんくの歌」をつくろう! (質疑応答)  
■県大チーム ・「井川の魅力の発見と発信」 (質疑応答)  
■Aチーム ・「井川移住体験プラン」 (質疑応答)  
15:20~ (10分休憩)  
15:30~ 発表者と参加者全体での意見交換  
16:20~ 閉会の挨拶 (16:30 終了)

図2 合同発表会の案内状



学生のプレゼンを聴く参加者(約50名)



渡船の案内板を製作した模型で説明する



## 平成 29 年度 井川活性化プロジェクト活動写真



1. 落花生の収穫を手伝う



2. 落花生を洗って干す



3. 井川ダム堰堤でのインタビュー風景



5. 手作りの感謝状を授与される学生



4. 渡船の案内板を調査する